



保育園運営事業を通して 新たな社会貢献を目指す

社会福祉施設運営で地域福祉に寄与したい

兵庫県遊技業協同組合(以下、兵遊協)では、組合運営の基本の一つに「社会貢献活動を通じた地域社会との共生」を掲げ、さまざまな社会貢献、地域貢献活動に取り組んでいる。その実績は業界内でも高く評価され、すでに2回の社会貢献大賞をはじめ、都府県方面最優秀賞、優秀賞、部門賞を受賞している。こうした活動の多くは兵遊協、および兵遊協が1994年に立ち上げた「社会福祉法人兵遊協社会福祉事業協力会」(以下、協力会)が中心となって行われているが、福祉団体やNPO法人に対する活動資金の支援や福祉施設への福祉車両の贈呈などが中心であった。

社会福祉法人は社会福祉施設を運営できる団体であり、社会のニーズを探り、それに応える施設を運営することで、地域福祉の向上に役立てる可能性を持っている。そこで協力会では資金や物品の寄贈事業に加え、社会福祉施設を直接、運営することを検討課題として、老人施設、障がい者施設、児童施設などの研究を続けてきた。その過程で、社会問題となっている少子化の一因には、晩婚化・未婚化に加え、都市部における保育施設の不足から来る子育ての負担感や不安感があるのではないかと、保育施設を充実させることは少子化問題解決に向けた有効な手立ての一つという方向性が出てきた。

2007年に神戸市が募集していた市有地提供による「保育園開設運営プロポーザル」への応募をきっかけに、兵遊協と協力会では、神戸市内を中心に数多くの候補地を示して、保育園の開設提案や協議を県や市に持ちかけた。県や神戸市その他の自治体との関わりの中で課題となったのは、事業主体となる協力会に社会福祉施設の運営実績がないことだった。また、保育事業への参画や土地取得に関する行政や既存園団体、不動産会社などの折衝では、遊技業界が保育園を運営することに対する懸念が示されることもあったという。



広い園庭で元気に遊ぶ園児たち



業界で前例のない保育園運営事業に乗り出す

そうした状況下でも粘り強く保育園の開設準備を進めるなか、兵遊協・協力会の担当職員が知人の明石市の保育園関係者に相談したところ、行政への橋渡し役としてバックアップするので、ぜひ、明石市で開設してほしいという申し出があった。当初は難色を示していた明石市側も、喫緊の課題である市内西部の待機児童の解消のためということで、2013年4月に保育園開設の認可がおりた。

2014年4月に開園した「すばる保育園」は、周囲に真新しい住宅が立ち並ぶ明石市大久保町大窪にある。敷地面積1333㎡、鉄筋コンクリート2階建て(延べ床面積795㎡)で、冬でも快適に過ごせるよう床暖房システムを採用し、保育室全室にガスヒートポンプ利用の冷暖房を完備、また防犯カメラや非常通報設備など、防犯面においても充実した設備となっている。園名の「すばる保育園」は、組合内で名称を募集して決定された。

「家庭的な雰囲気の中で基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、集団生活での経験を通じて自ら伸びる力、未来を作り出す力を育み、地域に根付いていく」ことを保育方針に掲げ、現在、0～5歳児の98名が通園、園長以下16名の保育士が保育にあたっている。また、保護者の多彩なライフスタイルに合わせ、通常保育のほか、早朝保育、時間外保育、延長保育にも対応している。

今年3月には第1回目の卒園児を送り出したが、保護者からは「すばる保育園に通って子どもの成長にとって大変プラスになった」、「ここに通わせてよかった。知人にもいい保育園だと宣伝します」といったコメントを得たという。初年度に園長を務め、現在は事務長を務める協力会の眞嶋雄二常務理事は、「1年で子どもたちがこれほど成長するとは予想できなかった。卒園式で、その姿に感動した」と話す。「今後も社会貢献の一環として保育園を運営していくという当初の使命を忘れることなく、事故のない、安全・安心な保育園の運営を目指す」と、眞嶋さん。遊技業界として前例のない保育園運営事業だけに、その成果に大いに期待したい。



すばる保育園落成式典で挨拶をする米田理事長

兵庫県遊技業協同組合
『「兵遊協/未来に向けた子育て支援活動」の推進
～社会問題化している待機児童解消の一助となる
保育施設「すばる保育園」の運営～』事業



兵庫県遊技業協同組合
理事長
米田義一さん



完成した「すばる保育園」